

最後の野球部員

2020.6.12

6月8日（月）より部活動が再開されている。放課後になると、臨時休業期間がうそのように、学校中に活気がみなぎっている。まだ慣れない様子の1年生の姿も微笑ましい。

ここ数日間で、各部の3年生に対して、それぞれの顧問の先生からメッセージが送られたことと思う。その一言一言が大切である。野球部は、部員が2人しかいない。それも3年生である。残念ながら1年生は入ってこなかった。あと2年は、野球部に1年生が入ってくる可能性はあるが、現状では考えにくい。野球部の顧問が、2人の3年生を前に話をした。以下に紹介する。

6月から学校が再開して、やっと部活動も8日から再開できるようになったわけだが、お前たちもすでに知っているように、第102回全国高等学校野球選手権大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から中止となった。野球だけでなく、高校生の大会は全て中止となっている。お前たちも「なぜ自分たちのときなのか」「なぜ中止なのか」など、思うところはたくさんあるだろう。どこにもぶつけられない気持ちがあるはずだ。気持ちも落ち込み、モチベーションも上がらないことだろう。

しかし、福島県高野連は、夏の大会の代替大会を開催してくれることを決定した。試合ができるぞ。全国の強豪校の監督さんが、様々なメディアで「言葉にならない」「何と言っているのか」「人生これだけではない」などと、いろいろなことを選手たちに話されているのも聞いた。

俺がお前たちに一番伝えたいのは、おそらくお前たちが梁川高校の最後の野球部員になるということだ。100年を超える伝統ある梁川高校の最後の野球部員なのだ。そして俺も梁川高校最後の野球部監督になるはずだ。現在、連合チームで人数もそろわず大変だ。練習もままならない。結果はどうなるかわからない。

最後の野球部員としてふさわしい姿、責任を感じて誇りをもってグラウンドに立とう。同窓会長さんをはじめ多くのOBさんたちにどのような姿を見せるのか、そこじゃないか？感謝の気持ちを持ち、気持ちを奮い立たせ、また明日から頑張ろう！最後だ！

2人は、顧問の言葉をどのように受け止めたのだろうか。何を思ったのだろうか。2人は、涙を浮かべて聞いていたそうである。

先日、2人の野球部員が登校してきた際に声をかけた。「最後の野球部員として頼むぞ」と、2人とも表情が変わった。引き締まったいい顔になった。そこには覚悟が感じられた。2人は、すでに成長しているのだと感じた。

これから2人の野球部員の大会までの練習の日々が、そのまま梁川高校野球部の最後の日々となる。ぜひ1日1日熱い思いを胸に取り組んでほしい。そして、大会には、最後の野球部員としての覚悟をもって臨んでほしい。勝ち負けは大事だが、堂々と立派な姿を見せてくれればそれでいい。本校野球部の長い歴史の重みを背負い、それを誇りに換えて戦ってほしい。健闘を祈る。